



IEEE

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group

本号では東京支部内で初めて試みた Life Member と若手会員の交流会についてご報告します。この交流会は以下の概要のように成功裏に終えることができました。LMAG(Life Members Affinity Group)ではこれまで実施してきた講演会に加えてこの種の新しい企画を考えていきたいと思っておりますので、Life Member はもちろん広い年代層に亘る支部会員の皆様どうぞ積極的にご参加ください。

交流会の趣旨

この交流会は LMAG メンバーの長年にわたる経験をもとに GOLD*メンバー、WIE**メンバー、Student Branch メンバーなどを交えて交流を図り、それが若手会員にとって何らかの示唆・刺激となることを意図して計画した。

* Graduates of the Last Decade

** Women in Engineering

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group
Chair 葉原 耕平

交流会の実施報告

交流会は 2012 年2月23日(木)午後 4 時から、中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区春日 1-13-27)で

「変化の激しい現実社会と向き合う」

をテーマに開催し GOLD、WIE、学生の各メンバーなど35名の参加し、主に GOLD 主要メンバー・学生のみなさんによって計画の詳細化・運営が行われた。ま



交流会議論風景

た、通常の講演会のように講話のあと若干の質疑を行うという形式を避け、できるだけ身近に議論ができるよう比較的少人数に限ることとして実施した。LMAG からは葉原 Chair、臼井 Vice Chair、持田 Secretary が出席した。

概要

冒頭 GOLD の大越 Chair から開催趣旨の説明の後、LMAG 葉原 Chair にバトンが渡された。葉原 Chair からはまず「学生と社会人の違い」について思うこと、考えることなどの問いかけがあり、若手からそれぞれの思いの発言が相次いだ。それに対し葉原 Chair から「大きな違いの一つとして学生時代に比べて社会人になると目に見えるペーパーテストが激減すること。その代り毎日毎日が何らかの目には見えないテストの連続であること。学生時代のテストは必ずユニークな解がある一方、社会でのテストでは正解は一つとは限らずむしろ唯一の解というのは稀であり、さらには何が問題かもわからない場合の方が多い。」などが指摘され、「そういう環境の中で何らかの解を見出していかなければならないこと。そのためにどういう姿勢が必要かが問われる」などが述べられた。

引き続き、葉原 Chair、臼井 Vice Chair、持田 Secretary からそれぞれの経験談があり、それをもとに参加メンバーと意見交流を行った。そこで議論された主な話題は

- ① 長い人生では自分ではどうにもできない大事・変革が起こるのが常である。葉原 Chair の場合、敗戦による混乱、通信事業の自由化などなど。昨年の東日本大震災もその例。
- ② 早い時期に外国経験を積み視野を広げること。
- ③ 英語は手段・道具として大切だが、それ以前にしっかりした自分の考えを持つことの方がはるかに重要。仮に英語が流暢でなくても内容のある話は誰しも真剣に聞こうとする。また、英語がすべてではない。それ以外の外国語を少しでも習得することは文化的背景・考え方の違いなどを知るにも有益。

- ④ 小さい失敗を早い時期に経験すること。挫折を経験しないままで過ごすとのちに取り返しのつかない失態を演じる危険がある。
- ⑤ グローバル化はアメリカ化ではない。グローバル化の名のもとに同じように見える製品にも文化が作り込まれている。グローバル化ゆえに逆に日本人としてのアイデンティティを持つことが重要。

などである。

懇親会

この後、参加者の間で懇親会を開催した。この場で葉原 Chair からシンポジウムとはギリシャ語の語源をたどれば「ともに酒を酌み交わして論壇風発」ということ。したがって、懇親会のない会合にシンポジウムという名称を使うのはいかがなものか。そこへ行くと今回の企画は立派なシンポジウムとか「際立って抜きん出た力を持つヘゲモニー国家」という概念がある。それは最初に産業、続いて商業・通商、最後に金融で他国を圧倒するが、その順序で普通の国になり下がる。17世紀にはオランダ、18, 19世紀はイギリス、そして20世紀はアメリカだ。このヘゲモニー国家論が今も成り立つなら今やアメリカは最後の金融有利のフェーズに入っているように思える。次はどこが台頭するか？ 中国かインドか、それは誰にもわからない。しかもそれが、若い皆さんの将来に大きな影響を与える。自信を持つことと同時に英語以外の言語の重要性もそこにある」などのコメントがあった。89歳を数える長老会員からは戦中戦後の貴重な苦労話が披露された。会場を世話してくださった中央大学橋本秀紀教授から「大会社といえどもいつどうなるかわからない。そのためにも学生はとにかく勉強しなさい。」という励ましがあつた。

盛り上がる雰囲気の中、最後に LMAG 持田 Secretary の関東一本締めで会を閉じた。



懇親会風景

総括として、若手会員に何らかの示唆・刺激となること、という企画の意図はおおむね達成された。



バナーとともに

次回のイベント情報

東京支部、LMAG、GOLD 共催講演会

演題：『デュアル・モード - グローバル化時代のサブ
イバル・スキル』

講演者：内海 善雄氏

日時：2012年4月9日(月)16:00～17:30

場所：中央大学 理工学部 後楽園キャンパス

詳細は [LMAG ホームページ](#) をご覧ください。

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group
Newsletter 2012年3月16日発行 第5号

発行：IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group
〒105-0011

東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 517号室

URL: <http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>

E-Mail: tokyosec@ieee-jp.org